

第１回 魅力ある教育環境のあり方検討委員会の意見の整理

【早期統合を重視する意見】

- 案 A～C のどれでもよいが、とにかく早く進めるべき。新しい立派な校舎・環境ができれば、市外に避難・転出した保護者が戻る動機になり、子どもも行きたいと思うのではないか。
- 地域が寂れる懸念はあるが、「数は力」であり人数が多いことで学びの環境が整い、多様な考えに触れられる良さがある。部活動・課外活動の活性化や、大人になってからも続く同級生との繋がりを考慮し、統合に賛成。選択肢としては案 C。

【集団規模についての意見】

- 教員としての経験から「学級 15 人」が一つのライン。15 人を下回ると切磋琢磨や活力が弱まるが、15 人を超えると多様な意見や対立が生まれ授業が面白くなる。将来市外・都会へ出る子どもたちのことを考えると、切磋琢磨できる環境を整えるべき。
- 人数が少ないと学校行事で先生の手が入りすぎ、子ども自身が「やりきった」という達成感を得にくい。今回、三崎の小中合同運動会のように人数が増えたことで、中学生が下級生の面倒を見ながら大きな達成感を得ていたように感じた。

【小規模校のあり方に対する意見】

- 統合には慎重。少人数だからこそ保護者が関わりやすく、地域住民が子どもに声をかける温かい環境がある。特定の強みを持った特色ある魅力的な学校にすれば、県外からも人が来るのではないか。
- 大谷が残る形になっているのは校舎が新しく遠方だからだが、子どもや保護者が大規模校を望めば存続できない可能性もある。地域で受入態勢を作らなければ学校の「器」だけあっても子どもは居続けることができない。地域として、子どもや保護者に来てもらえる環境をどう確保するかを考えていきたい。
- 各地域に学校を残すことが望ましいが、大谷は今後児童生徒がゼロになる可能性もある。地すべり等で家屋再建を諦める人もいる中、人口減が見込まれる大谷に学校を残すのか、他の利活用も含めて率直に検討すべき。

【小規模校の強みと補完策についての意見】

- 縦割り活動の良さと、大人数の前で発表して承認を得る経験の両方が重要。少人数のよさと大人数のプレッシャーの中で活躍する経験の両方を用意することが大切。
- 学びの多様化が求められる中で、探究活動を強みにする小規模校もある。普段は分散して学び、効果的な学習の時だけ 1 校に集まるような柔軟な運用も考えられる。

【学校再編に関する案Cに対する意見】

- 三崎町を選んだ家族が地域に根づくには、中学校の存続は厳しくても小学校だけでも地域にあることが望ましい。三崎から緑丘方面への通学負担を考えるとみさき小を維持してほしい。
- 校舎老朽化による統合自体には概ね同意。一方、三崎では知人の移住者が震災後も残る意思を示している。みさき小は比較的校舎が新しい。宝立小中学校は、将来的に新しい学校に移ることも考えられるが存続を望む。震災があっても学べる教育環境があることは重要で、現時点で案C。
- 学校が1校になると朝12～13kmをバス移動することになり、小1には負担が大きく案Cを支持。公民館と学校が連携した活動が維持できるかも懸念される。
- 自身が移住した決め手は学校が複数あり、市が教育に力を入れている印象があったから。地理的に学校が分散する案Cが望ましく、行き詰まった子どもにとっても選択肢が複数ある方がよい。
- 事前アンケートでは明確な賛否はなかったが、選択肢が示された中では案Cを希望。運動会や相撲大会など、今後も他校と合同で賑やかに開催できる機会があるとよい。
- ICT活用や遠隔交流を活用することで社会性・競争力が高まるのではないか。魅力ある地域にするためまちづくりと連携する必要がある。宝立の地元としては存続させたい思いがあり案Cを支持。ただし今年度、宝立小中学校に1名で入学した子が保育園の友達と離れてしまい、泣いて通学する姿を見るなど少人数の課題も実感している。
- 学校は残した方がよいが、議論を踏まえると案Cになるのではないか。PTAで集まる機会があるため意見を取りまとめて報告する。

【保育園のつながりについての意見】

- 保育園で一緒だった子どもたちが小学校で分かれる違和感がある。保育園再開と学校再編はつながるのではないか。
- 遠隔交流学习等により保育園で一緒だった子ども同士が画面越しに学習できる。保育園から小学校へつなげる教育の運用も重要である。

【子どもの不安軽減についての意見】

- 入学する娘の学年が女子1人・男子3人の予定で、泣きながら1人で通うような状況になるなら他校に通わせる選択も考えたい。子どもが楽しくない、行きたくない、つらいと感じる選択肢は避けてほしい。

【教育の内容についての意見】

- 学校はできるだけ多く残してほしい。まず、建物をどうするか、人数をどうするかではなく、「何を教えるか」が先である。珠洲ならではの面白い教育を行い、珠洲を出た人も帰ってこようと思える学校をつくる発想が必要。

【先進事例の共有と子どもが参画する学校づくりについての意見】

- 大人が自分の経験だけで教育を語ることには慎重であるべき。大人も子どもも全国の先進的な教育事例を知ること、地域でできる教育の発想が広がる。
- 次回以降、教育委員会から都市部や小規模校のICT活用・リモート合同授業などの先進事例や方向性を紹介してほしい。
- 子どもに単に意見を聞くだけでなく、「自分たちの意見が実現する可能性がある」という実感をもてるよう丁寧な「耕し」を行い、子どもたちの夢が叶うような学校づくりにつなげたい。